

日本英語教育史学会 第 277 回 研究例会のご案内

日 時：2020 年 3 月 21 日(土)14:00～17:00

会 場：真宗教化センター しんらん交流館

(京都市下京区諏訪町通六条下ル上柳町 199)

参加費：無料

研究発表①

台湾の高等学校英語教科書で取り扱われる文学作品が培う学力

—1995 年「課程標準」、2008 年「課程綱要」準拠版教科書から

平井 清子氏 (北里大学 教授)

【概要】台湾の高校英語教科書の題材内容を調査すると、その大きな特色として、実用英語とともに「文学」を重視し、言葉の美しさはもとより、文学作品から高校生に必要な人生観、倫理観、そして恋愛観などを育てていることがあげられる。本研究では、1995 年と 2008 年「課程標準」準拠版教科書の題材内容を特に「文学」に焦点を絞り、どのような内容の文学教材が取り扱われているか、それら文学教材が培う学力という観点から調査・分析し、日本の英語教育への応用を探る。

研究発表②

戦前日本の英語教育における教科横断的要素 (CLIL) について

—国定英語教科書や英語教授法書の分析を通して—

二五 義博氏 (海上保安大学校 教授)

【概要】現代のヨーロッパだけでなく、戦前の日本の英語教育においても CLIL の要素は多く見られる。本発表では、まず、明治時代の小学校用国定英語教科書である文部省著『小学校用文部省英語読本』全 3 巻 (明治 41～43 年) および教師用指導書を研究対象としながら、他教科内容 (算数、理科、社会科など) と言語の両面からの考察を行う。次に、森田與惣之

助著『英語教授法集成』（昭和3年）をはじめとする英語教育論をもとに、英語科と他教科との関係がいかに強調されていたかを明らかにする。

<問合せ先> 日本英語教育史学会例会担当

メール: reikai(at)hiset.jp (at)を@に変換してください。

- ◆例会は会員・非会員に限らずどなたでもご参加いただけます（予約不要）。
- ◆ご宿泊の方は宿泊先等の確保をお早めをお願いします。
- ◆例会終了後に懇親会を行います。こちらにも奮ってご参加ください。

<会場案内>

次のリンク先をご参照ください。

[真宗教化センター しんらん交流館](#)

※外部ホームページ